

街道を歩く



木曽街道5

塔野～土田



臨済宗妙心寺派 真禪寺



森長可墓



手前澤木家、右前方常夜燈



塔野地獅子舞
市指定無形文化財
熊野神社

片桐且元の妻が再建。
慶長10年(1605)棟札残る。

勿橋

"土田の勿橋、大田の渡し、碓氷峠がなげりやよい"
とも唄われたほどの難所の一つ
森長可の首級を運ぶ時と、幕末、天狗党の名古屋
入り阻止のため橋を落としている。

土田城址

近江佐々木義詮の末裔、山内秀久が土田に移り住み
土田を名乗る。親交のあった現江南市小折の生駒家広
の娘を妻とした。その後、秀久と家広不仲となったので
娘は実家に戻る。次男政久が織田家に仕え土田城を築城。
政久の子、親重が生駒家に養子になり土田城主を継ぐ。
親重の子の親正が信長の命で城を出て廃城。政久
の娘が織田信秀に嫁ぎ、信長を生む、土田御前。

臨済宗妙心派普善院

真禪寺

森長可墓

鳩吹山

西帷子

建速神社

西可児駅

石原

ゴルフ場

地名 帷子の由来

長久手の戦いで敗れた森長可の家来たちは
この辺りの真禪寺に主君の首を葬り、鎧を脱ぎ
、その下に着てい帷子を野良着に帰農した。

石拾い峠 標高160m
尾張の国から美濃の国へ

旅人が険しい峠道の無事を
祈って、石を積んだという。

名古屋から六里、交通量は多くなかった様子

中山道大田川満水のときの迂回路しても利用されていた

臨済宗妙心派 福寿山 禪徳寺

文明6年(1474)開創 真福寺末寺

堀澤周安の墓 (寺境内)

明治2年生まれ、国文学者、

明治節の歌作詞 本陣日比野家

問屋澤木家

この辺り伏屋地区

善師野宿

池

善師野宿

名鉄広見線

犬山方面

清水の道標

右いぬ山、左なごや道

標識

尾張パークウェイ

臨済宗妙心派護国山

清水寺 (せいすいじ)

坂上田村磨と因縁深い寺

(椿、白い彼岸花でも知られている)

寺伝にいふ、当寺は延暦24年坂上田村磨の建立、中興開山は
悟溪和尚にして、その後寛永20年僧空屋の再建になり
本尊釈迦木像、観音堂聖徳太子作馬頭観音を安置す。
田村磨の寄付。

(虫送りの行事七月十三日)